

私のすすめるこの1冊

山下 宏文 (社会科学科 教授)

『森林飽和 国土の変貌を考える』

太田猛彦 (著)

京都の昔話といえば「一寸法師」を思い浮かべる人が多いのではないだろうか。一般によく知られた昔話である。この昔話のクライマックスは、一寸法師が、お姫様のお伴で清水寺にお参りに行った帰り道に、鬼に襲われ、その鬼を追い払うとともに打出の小槌を手に入れる場面である。この場面で、私は、この鬼の住みかはどこなのだろうと疑問をもってしまふ。何故なら、昔話に登場する鬼の住みかは山奥や森の奥深くまたは島と決まっているのだが、室町時代中期の清水寺の周辺には、鬼が住みかとできるような鬱蒼とした森はどこにもないからである。清水寺は、京都東山の山麓にあるのだから、東山の森の奥深くと考えればよいと思うかもしれないが、そのころの東山の森はほとんどが低い柴木や草の植生をともなうマツの疎林が広がっていて、とうてい鬼が住めるような場所はないのである。

実は、このよく知られる「一寸法師」と「御伽草子」の中の「一寸法師」の話とは内容が随分違っている。「御伽草子」では、清水寺は出てこないし、鬼と遭遇するのも舟で流され着いた「きょうがる島」である。

私たちは、概して昔は今より森林が豊富にあり、時代とともにその森林が減少してきているといった感をもっていないだろうか。ヨーロッパの森林については、開発で失われてしまった森林を 19 世紀の半ば以降に回復させてきていることが話題になることはあるが、日本の森林については、その変遷が話題となることはほとんどない。日本の森林は、今、大きな課題を抱えているのだが、その課

題を解決していくためには、日本の森林の変遷を踏まえた現状の認識が重要になってくる。

本書は、日本の森林に対して、まさにその変遷を踏まえた現状を提示するとともに、この現状が災害の発生と密接に関係してきていることを具体的に述べている。著者は、日本の国土の現状は「森林の飽和状態」である、という。そして、「私たち日本人は、列島の歴史上かつてないほど豊かな緑を背景に生きているという事実を知らなければならぬ。」と指摘する。昔の日本ははげ山だらけの里山があちこちで見られたのである。しかし、この「豊かな緑」は自然の放置によって生じたものであり、それが各地でおこる様々な災害や野生動物被害などの問題と密接に結びついていると指摘する。自然の放置によって人工林や雑木林は荒廃し、奥山の自然林でもシカによる食害が深刻になっている。

では、こうした問題にどう対処していけばよいのだろうか。著者は、きちんと地域の森林を管理していくことが何よりも重要であるという。そして、森林を管理していくためには「護る森」と「使う森」があることを明確に意識することが重要であるという。また、こうした管理は、森林・林業関係者や山村の人々に委ねておけばよいというものではなく国民全体からの支援や合理的な助成制度が不可欠であるという。

日本の森林の現状を知るためにも、これからの国土のあり方を考えるためにも、そして災害に備えるためにも、本書の一読を勧めたい。

◆ みんなでつくろう！わくわくブックチャート ◆

読書キャンペーン

(対象:本学学生)

2016年2月17日(水)まで実施

コメントを書いてグッズをもらおう

あともう少しで
終了です！

① **まず本を借りる** ◆ 「そったくんポリバッグ」をもらう

そったくんポリバッグ

② **借りた本を返す** ◆ 「ポイントカード」をもらう (サービスで1ポイント付き！)

③ **本を読んでチャートを書く** ◆ 1ポイントもらう

「この本を読んだ目的は？」「目的を達成できた？」「その理由を50文字以内で！」を書いて提出するだけです！

または、**本を読んでコメントを書く** ◆ 3ポイントもらう

本の感想やおすすめポイントなどを200~400字で自由に書いてください！3ポイントもらえる上に、**館長賞の候補**になります！

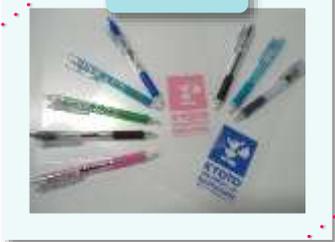
今年もあります、館長賞！ コメントを提出した方の中から、優秀者には館長賞を授与します。キャンペーン終了後の発表を待て！

④ **学修支援グッズをもらう** (先着順。なくなり次第終了)

- ◆ 3ポイント：そったくんシャープペンほか
- ◆ 4ポイント：テープのり、修正テープほか
- ◆ 5ポイント：そったくんビニールトートバッグ
- ◆ ~~10ポイント：フリクションペンほか (終了しました)~~

保有ポイントに応じて好きな賞品と交換できます。同じポイントの賞品を複数個もらうこともOK (6ポイントで3ポイントのクリアファイルを2枚と交換、等)。人気の賞品はなくなることもありますのでお早めに！

3ポイント



4ポイント



5ポイント



●●●●● 賞品の引換 ●●●●●

♠ 期間：2016年3月25日迄、実施中！

♠ 時間：月~金：9:00~17:00

♠ 場所：附属図書館1F 事務室

みんな、どんな本よんでるの？

キャンペーン中に提出されたチャートを、読まれた本と一緒に展示しています。文章の参考にするもよし、紹介された本が面白そうなら借りてみるもよし。本棚の中から選ばれた本たちをぜひ見に来てください。

展示場所：附属図書館 西館2階 館長室前



「うたとおはなしの会」や「えほんのもり」が「京都市はぐくみ憲章」実践推進者として表彰されます！

幼児教育科が実施している「うたとおはなしの会」や毎月の読み聞かせ会「えほんのもり」（附属図書館共催）が、京都市の「子どもを共に育む京都市民憲章（愛称：京都市はぐくみ憲章）」の実践推進活動として認められ、表彰されることになりました。表彰式は、平成28年2月27日（土）の13時から京都産業会館で行われます。（詳しくは京都市のホームページ等でご確認ください）
<http://hagukumi2525.kyoto.jp/>

Pick Up コーナー「地図」

西館2階から南館2階に行く途中のOPAC（蔵書検索端末）の横に「地図コーナー」があるのを知っていますか？世界地図や日本地図、京都の住宅地図などが置いてあり、その場で広げて読むことができます。最近では『ワイドアトラス日本地図帳』『ワイドアトラス世界地図帳』（いずれも平凡社）の新訂版も入りました。インターネットで調べればすぐに地図が表示される時代ですが、1冊の本として楽しむのも乙なものです。



春季休業に伴う長期貸出について

学部生：1月28日（木）～3月30日（水）
 院生・教職員：1月14日（木）～3月16日（水）
 【返却期限日】2016年4月14日（木）
 ※視聴覚資料を除く

えほんのもり（場所：児童書コーナー）

今月の読み聞かせ会は、
2月15日（月）15:00～ です。

『ゆきのひは あつい あつい』 いわむら かずお：作・絵

今月の絵本カードはこちら！



★おすすめポイント★
 子リスたちは そり遊びをしようとおははりきり。寒がりやのお父さんも一緒に外へ連れ出します。「寒い寒い」としびしびつきあっていたお父さんですが一緒に遊んでいるうちに・・・？

※絵本カードは幼児教育科の学生が作成しています。このほかにも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ児童書コーナーに見に来てください。

図書館員のつぶやき (12)

「就職支援コーナーの入替シーズンです」

西館2階の「就職支援コーナー」には教員採用試験の問題集などを置いていますが、実は年度末が近づく頃に新しいものと古いものを入れ替えています。新しい問題集の購入は、主に京都教育大学後援会からの寄付金によってまかなわれています。まずは1階の新着図書コーナーに並びますのでぜひご利用ください。古いものは3～5年前のものが主ですが、図書館では廃棄をして、リフレッシュラウンジの「ご自由にお持ち帰りください」コーナーに置く予定ですので、こちらも要チェックですよ。

学修相談カウンターを設けています

- ★初等理科教育、初等数学教育、小学校教科内容論（理科、数学）などの基礎的な授業に対するアドバイス
 - ★レポートの書き方がわからない
 - ★文献ってどうやって探すの？
 - ★パソコンの基本的な使い方等々お気軽に！
- 【場所】図書館北館2階 ラーニングcommons
 【期間】2016年2月まで
 【時間】休業中は変則的になりますのでホームページを確認してください

対応できる範囲は担当者によって異なります。曜日や時間、担当教科は日によって変わりますので、ホームページやラーニングcommons掲示板等で最新の情報をご確認ください。

企画展示室

平成27年度 附属学校・園 子ども美術作品展
 【日時】1月26日（火）～2月2日（火）まで



毎年度恒例の作品展です！

教育資料館 まなびの森ミュージアム

今月の逸品
 「電車模型・架空複線式」

詳しくはホームページの「今月の逸品」コーナーをご覧ください。展示をしていますので、ぜひミュージアムへ来てくださいね！



詳しくは…教育資料館 まなびの森ミュージアム
<http://manabinomori.kyokyo-u.ac.jp/manabinomori.html>

今回の執筆者 広木 正紀(京都教育大学 名誉教授)

食育の系統化に関する研究(II) - 「食」を核にした市民教育カリキュラムの構想に向けて-

広木 正紀・松林 昭

京都教育大学紀要. 2015, No.127, pp. 143-168

テレビや新聞などで、頻発する天災の報道に加え、人間自身が人の命をないがしろにする身近な事件や事故のニュースが日常的に流れている。国際的な事象についても、政治・宗教・民族・思想信条等が絡む、やはり人の命がないがしろにされる人間どうしの軋轢のニュースが後を絶たない。

学校教育の中心的な役割は1)「人々がそれぞれ自らの生活を味わい楽しみ、充実した生き方を見出して行ける力をつけることへの支援」であって欲しい。しかし内外の現実には、そのような力を育む以前のこととして2)「日々の生計を維持することや、生まれた生命を維持することを支援する教育」の実現や、そのような教育を受ける権利の行使自体が、なお重要な課題であることを物語っている。

その中で、2)だけでなく1)についても、実際の学校教育が有効に機能している、と確信を持って言うことは難しい状況があるように思える。そのことは、国際学力調査の結果に関わって日本の子どもたちについて指摘される「知離れ」の傾向からも窺われる(中村・松浦 2001、長洲 2001 等)。

これらのことを踏まえ、公の目的で行われる学校教育にとって、今そしてこれからも大切なのは、地球を生活の舞台とする人間の誰にとっても必要なリテラシー教育の内容として、何をどのように取り上げていくかを探っていくこと、すなわちカリキュラムの開発研究なのではないだろうか、という問題意識が本論文の土台になっている。

「食」をリテラシー教育におけるカリキュラム開発の核に位置づける理由は、第一に、食は居住地・言語・民族・思想信条・生活習慣等の違いに依らず、世界の全ての人に共通する営みであり、関心事であること；第二に、食はそれだけが孤立して成り立つことはあり得ず、地球上の様々なつながりを追いかけて学ぶ起点になり得ることである(①食は自分以外の生き物を自分の体内に取り込むことであり、それ自体が外界とつながる行為である；②食物である生き物は、食物連鎖などさまざまなつながりが織りなす自然の営みの中で生まれたものである；③食物は、それが自分の口に到達するまでに、自然から得られ、加工され、運ばれるなど、多くの人の手がつながる関係を経て来ている、等々)。

本論文を地球市民教育カリキュラム開発研究の一步としたい。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 127 号に掲載されています。
※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/>にも公開されています。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00

■学内者のみ(9:00~17:00) ■休館(CLOSED)

2016年2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

2/4-2/10 後期末試験

2/6 入試(学外者の来館不可)

2/25-2/26 前期入試

2016年3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

3/2 館内整理日

3/12 後期入試

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>



●携帯版図書館ホームページ(QRコード)

<http://tosh002.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>

京教図書館 News No.185(2016年2月号)

発行日:平成28年2月1日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp